

平成20年度主要農作物品種審査会（麦類）会議録

1 日 時：平成20年9月10日（水）

2 場 所：宮城県本町分庁舎（漁信基ビル） 602会議室

3 出席者：

（1）審査会委員：木村 伸，國分牧衛，中野 修，佐藤公夫，只野九十九，岩片弘信，真木伸治，
城所 隆（敬称略）

（2）審査会幹事：涌井 茂，武田 忠，及川 勉，佐々木俊彦，井城克廣

4 会議録

（午後1時30分開始）

○事務局（若生副参事）

定刻でございますので，平成20年度宮城県主要農作物品種審査会を開催いたします。
開会の御挨拶を木村副会長よりお願いいたします。

○木村副会長

本日は主要農作物品種審査会の開催にあたりまして，お忙しい中，御出席を賜りありがとうございます。当審査会は，情報公開条例に基づきまして，公開で開催させていただきますので，委員の皆様には御了承願います。

本日の審査会で宮城県知事から諮問を求められておりますのは，小麦品種「あおぼの恋」を奨励品種に指定することについてと麦類の平成20年度奨励品種決定調査に供する品種についてでございます。「あおぼの恋」については，製麺適性に優れた早生の小麦品種で，高品質・安定生産が期待できます。また，民間流通制度における宮城県の麦類の需給状況でございますが，需要が供給を上回る，いわゆる逆ミスマッチの状態にありまして，実需者からはさらなる作付けが求められている状況であります。こうしたことから，収量はもとより，実需者から求められる品質の優れた奨励品種の選定と普及が重要となってきましたので，奨励品種決定調査に供する品種の選定につきましても慎重な審議をお願いいたします。

○事務局（若生副参事）

（出席委員の紹介及び委員10名中8名の出席により会が成立することを報告。）

（会長及び副会長が各1名ずつ空席であること，委員の互選により定めることとなっていることを説明。）

○木村副会長

それでは，会長及び副会長の選出についてお諮り致します。

○城所委員

会長には國分委員，副会長には中野委員が適任と思います。

○木村副会長

ただいま，会長には國分委員，副会長には中野委員の御推薦がありましたが，いかがでしょうか。

(賛同の声あり)

○木村副会長

皆様から御賛同の声がありましたので，会長は國分委員，副会長は中野委員にお願いいたしたいと思います。それでは，新会長より御挨拶をお願いいたします。

○國分会長

(会長就任挨拶)

(國分会長に議長交代)

○國分会長

それでは審議に入りたいと思いますので，諮問事項の1項めの小麦の新品種について事務局より説明をお願いしたいと思います。

○佐々木幹事及び事務局（千葉技術副参事）

(資料2～16ページにより，小麦品種「あおぼの恋」を奨励品種に指定することについて説明)

○國分会長

それでは御質問をお願いいたします。

○中野副会長

少し大げさな表現になりますが，国内の食糧自給率を高めるという観点からは，作付けの際の選択肢が増えるということで有効と思います。また，これまで宮城県には小麦の早生品種がなかったことから，梅雨の時期に収穫に入るので，いくらかでも早生であるということは有効であると思います。

○國分委員

シラネコムギが一部の業者から日本麺用として不十分であるという御指摘があるようですが，具体的にはどのような内容なのでしょう。

○事務局（堀内）

シラネコムギは日本麺用ではございますが、産地や年度によっては、乾麺を乾かしているときに落ちてしまったりすることがあるようです。実際、食べてみてコシがないように感じられるものもありますので、それらについて、代替できるものということでの実需者からの要望でございます。

○國分会長

ありがとうございます。新しい品種については、その心配がないということでしょうか。他に質問はございませんでしょうか。

長所と短所をみますと、まず、早生というのは、梅雨前に収穫ができるということで、重要なことと思われまます。また、2番目の紛質が硬質であるというのは、北海道の一部の品種を除くと、本州の主要な小麦には硬質はないので、その辺が製麺適性にも出ているのではないかと思われまます。日本の麺用には、残念ながら、オーストラリアの品種、ブレンドの小麦粉の評価が高く、日本の小麦でオーストラリア産の小麦を超えたいというのがブリーダーの悲願であります。オーストラリアの標準品と比較するとどうでしょうか。

○事務局（千田）

オーストラリアのブレンド小麦との比較では、調査期間の平成16～19年度にかけて、毎年、試験場産の小麦で実需者による製麺試験を行っております。その中で、参考としてASW(Australian Standard White, 日本麺用原料として現在最も使われている小麦粉)とも比較しておりますが、基本的にはASWを超える結果は出ないことが多いのですが、当品種については、年次によってはASWを上回る結果が出ておまして、その点からも製麺適性が優れているものと考えております。

○國分会長

予想以上の回答でしたが、実際に食べてみてどうかということなので、試食の準備をお願いします。

準備が整うまで、御質問はありませんでしょうか。

○中野副会長

縞萎縮病については、昔はあまり聞かない病気だったのですが、最近県北部を中心に多くなっているようですが、発生程度はどのような状況でしょうか。

○事務局（千田）

発生の面積は把握しておりませんが、登米市の縞萎縮病常発地で試験を行ったときに、シラネコムギにはかなり影響が出ていたことは確認しております。

○國分会長

地域としては、宮城県北部と岩手県南部で多かったでしょうか。

○事務局（千田）

聞いている範囲では、登米市を中心とした地域の他に大河原地域にも少し発生があるようです。

○國分会長

試食の準備ができたようですので、食べ方の説明などあればお願いします。

○事務局（千田）

本日準備いたしましたのは、古川農業試験場産のあおばの恋とシラネコムギを実際の製麺ラインにのせて乾麺を試験的に製造してもらったものです。試食に関しましては、御自由にお召し上がりいただいて結構ですが、あおばの恋の特徴としましては、麺に黄色味があるということと、麺の食感・食味に優れるという点もございますので、つゆにつけなくて食べてみるのもいいかと思います。最終的には、総合的評価として、つゆにつけて食べてみていただければいいかと思います。

（あおばの恋とシラネコムギのうどん試食）

○國分会長

あおばの恋の方がおいしいと思った方の挙手をお願いできますでしょうか。

（全員挙手）

○國分会長

普通は満場一致ということはないのですが、今日は新品種の評価が高かったようです。

引き続き御意見をいただきたいと思いますが、食味試験の評価も出ておりますが、食感の評価が高かったようで、総合評価でも1割程度の点の開きがあるようです。今食べてみて感じられましたので、この調査結果の数字は妥当なものではないかと思います。特にこの粘度のせいでしょうかこりこりとした感じで、色も白くてかつ黄色味があるのでしょうか、その辺が、我々の見る目ではおいしさにつながっているようです。

あとは、栽培適性も大事でして、特に短所にある耐倒伏性が”中”であるのが”強”であって欲しいところです。それから、赤かび病が”やや弱”である点が気になるところです。日本の小麦品種で非常に強いものはないということですが、せめて”中”や”やや強”といった品種が望ましいのですが、”やや弱”という評価がこの品種の弱点としては気になるところだと思います。成績書を見ますと、対象品種のシラネコムギは”中”となっておりますが、20年前の基準ですので、現在は少し基準が厳しくなっております。新品種は”やや弱”ということなので、単純に見ると新品種が弱いということになりますが、資料によりますとあまり差がないということよろしいのでしょうか。

○事務局（千田）

シラネコムギが奨励品種になった頃は、赤かび病の特性検定が菌の接種試験により行われて

いたわけではなく、観察による判定だったということがあります。あおばの恋については、資料にありますとおり接種試験を行って検定した結果”やや弱”という結果となっております。シラネコムギについても同様に検定した結果では”やや弱”という結果であり、シラネコムギと同様の防除を行えばあおばの恋も赤かび病に対して同等に防除できるものと考えております。

○國分会長

ありがとうございました。特性一覧表の赤かび病の評価は、シラネコムギについては採用当時の評価で、あおばの恋については現在の評価方法による評価であるということですね。ややこしいところがありますが、数年間の検定結果で、シラネコムギより弱くはないということで結果が出ております。ただ、強くはないので、防除が必要となるということです。

あとは、早生ということで、冬霜害の問題はいかがでしょうか。

○事務局（千田）

寒雪害について達観で調査したところでは、越冬後の雪腐れ等の病害や寒雪害により腐ってしまったりということは全く見られませんでした。古川農業試験場は県内でも寒い地域にありますので、県内の他の地域でも麦踏み等の管理を適切に行えば問題ないものと考えております。

○只野委員

麦の多くは転作田で栽培されていますので、どうしても吟味して栽培するというような状況にないと思いますので、宮城県では、品質がいいとかよりも、病気に強い特性があるとかの方が普及しやすいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○事務局（堀内）

御指摘のとおり、病気に強いとか作りやすい品種がいいのですが、昨今は、買ってもらえるものでないとか作付けもできない状況となってきました。ご存じのとおり、外国産麦と比べて国内産麦は生産コストが高い状況にあり、価格が国から補填されておりますが、少しでも高く売れるものである必要があります。また、生産できないほど特性が劣るのではどうしようもありませんが、最低限、栽培できるような品種を選定しているところであります。

○事務局（千葉技術副参事）

県内の麦類の作付けは、ほ場整備後の生産が9割以上であり、ブロックローテーションで栽培しているところも多いため、栽培になれてきておまして、ある程度、水田作でも高収量の生産ができるようになってきております。

○國分会長

品種の選定では、品質なのか、栽培特性なのか問題になるころではあります。今の品種は、品質が良くないと売れないということが第一条件です。米についていえば、コシヒカリは必ずしも栽培特性がいいわけではないですが高く売れるということで、全国一の作付けシェアを持っているわけで、これからの品種選定では、まずは、売れそうな品種、品質の良いもので

あることが第一条件で、さらに栽培特性の備わっているものが多いのですが、なかなか全てが備わっているものはない状況です。赤かび病は日本だけでなく、世界を見ても本当に強いものはないと聞きました。”やや強”はあるようですが、そのような観点からは、”中”や”やや強”でも望ましいと思いますが、ブリーダーもそこまで形質をそろえられないのが現状かと思いません。もう一つ重要なのが穂発芽ですが、梅雨時期に成熟しますので、立毛中に芽が出てしまうのですが、これが”かなり難”という評価になっておりますが、日本語的には”難”より強いのか弱いかわかりませんが、”難”より発芽しにくいということで、穂発芽については非常に優れた品種であるということですね。病害等についてまとめると、穂発芽に対しては優れた特性がありますが、赤かび病に対してはちょっと弱いですが、対象品種並みというところでしょうか。この点に関して御意見はありませんでしょうか。

○城所委員

私は病害虫が専門ですが、縞萎縮病に対して強いということは宮城県では良い特性と考えております。だんだん増えてきておりますが、基本的に防除対策がないので、品種による抵抗性というのは大変有効であると思います。また、赤かび病に対しては、”やや弱”という評価なので弱いと思われませんが、シラネコムギと同等であれば従来の防除体系で対応できるので、気象条件は別として、それほど問題にはならないと思います。この前に採用された「ゆきちから」がかなり弱かったのですが、これと比べればむしろ強いと言えると思います。うどんこ病に対して”やや弱”というのは、宮城県においては実際の栽培現場ではうどんこ病の発生はないので問題はないと考えます。

○國分会長

今の点はどうでしょうか。対象品種と比べて劣るものではないという御意見ですが、よろしいでしょうか。

長所は早生であること、何より製麺適性が優れること、私たちが食べておいしいということがあります。それから、栽培特性の面でも縞萎縮病に強い、穂発芽に強いという非常に優れた特性があるということですので、今までにない良い品種だということになると思います。他にありませんでしょうか。たとえば、「あおばの恋」という名前はどのように付けられたのかとか。昔の青葉城恋歌を連想してしまいますが、問題はないのでしょうか。

○事務局（堀内）

宮城県でつけた名称ではなくて、育成地（作物研究センター）で付けたものです。

由来は、「あおば」は収穫期の夏をイメージし、「恋」は消費者に好かれることを願ったものとのことです。

○國分会長

麦秋という言葉があり、初夏のイメージで付けられたようですが、むしろ、青葉の時期に成熟するということでしょうか。関東では、5月下旬か6月上旬くらいでしょうか。品種の普及にはネーミングも非常に重要ですので、いい名前ではないかと思われれます。他に御質問はござ

いませんでしょうか。

○岩片委員

現在の宮城県の奨励品種を見ますと、東北で比較しても上位等級の比率が低い状況です。せっかくいい品種を採用しても、品質が悪いと評価が下がってしまいます。先日、民間流通の入札がありましたが、宮城の小麦は評価が高くない状況で、一般に1トン当たり5万円程度ですが、宮城県産は4万5千円程度となっております。なんとか全国レベルに上げていくことが重要と考えますが、営農指導上の問題かもしれませんが、いかがでしょうか。

○事務局（堀内）

宮城県の麦は一等麦が多くなく、所得に結びつかないというところはあると思います。今回のあおばの恋は品質が優れるという特性がございますので、期待しているところでございます。

○國分会長

他に御質問がないようでしたら、知事からの「奨励品種に指定してよろしいか」という諮問に対して、皆さんの御意見は、試食してみてもおいしいということと栽培特性も若干の改善の余地があるにしても、対象品種に比べて総合力で優れたものと言うことができるということから、妥当であるという答申にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

（賛同の声あり）

○國分会長

それでは諮問の2項めでございますが、これから奨励品種決定調査に供する品種についての御説明をお願いします。

○佐々木幹事

（資料17～18ページにより、平成20年度奨励品種決定調査に供する品種（麦類）について説明）

○國分会長

ありがとうございました。今日は麵用の小麦の奨励品種の審査でしたが、パン用については「ゆきちから」がありますが、赤かび病の耐病性に問題があるようですが、耐病性を改良した系統の東北223号をねらっているようです。御質問はありませんでしょうか。ないようでしたら、諮問の2項めについても諮問どおり妥当であるとの答申でよろしいでしょうか。

（賛同の声あり）

○國分会長

以上諮問事項の審議は終了しましたが、事務局から他にございませんでしょうか。

ないようですので、議長の任を解かせていただきたいと思います。御審議ありがとうございました。

○事務局（若生副参事）

ありがとうございました。それでは、事務局より事務連絡をさせていただきます。当審査会は年2回程度開催させていただいております。次の審査会については2月頃に、平成21年度の奨励品種決定調査に供する稲及び大豆の品種について御審議をいただく予定であります。具体的な日程につきましては、決定次第御連絡を申し上げますので、よろしくお願いいたします。皆様には長時間にわたり御審議をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして主要農作物品種審査会の一切を終了させていただきます。御苦勞様でございました。

（午後3時10分終了）